

HAPIC2025 事業終了報告書

—多様な主体による協働を促進する ハイブリッド型カンファレンスの実施—



特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター(JANIC)

エグゼクティブサマリー

本事業「HAPIC2025(Happiness Idea Conference)」は、NGO、企業、行政、研究機関など多様な主体が集い、対話と協働を通じて社会課題の解決に向けた新たな可能性を探ることを目的として実施した。

延べ1,092名、402組織が参加し、セクターを越えた広範なネットワークが形成された。対面イベントとオンラインセッションを組み合わせたハイブリッド設計により、単発参加にとどまらない継続的な関与も確認された。

本事業の特徴は、各セッションを会員や協賛者が中心となって運営したことである。特に、企業スポンサーや協賛団体がセッションの企画・運営に主体的に関与し、単なる資金提供にとどまらない「共創型パートナーシップ」が構築された点は特筆に値する。その結果、JANIC事務局との業務提携や会員団体との個別連携など、具体的な協働事例が創出された。

本事業は、NGOの実践知を社会に接続するとともに、マルチセクター協働を実装するプラットフォームとして機能し、今後の連携拡大に向けた基盤を形成したといえる。

目次

HAPIC2025 事業終了報告書	
—多様な主体による協働を促進する	
ハイブリッド型カンファレンスの実施—	1
エグゼクティブサマリー	1
1. 事業概要	3
1-1 事業名	3
1-2 実施期間	3
2. 背景と目的	3
目的	3
3. 事業設計	3
(1) 対面交流イベント	3
(2) オンラインセッション	3
(3) アーカイブ配信	3
(4) Slackコミュニティ	4
4. 実施体制	4
5. 参加状況	5
5-1 参加人数	5
5-2 参加組織	5
5-3 セクター別構成	6
6. 成果	7
(1) 対面交流イベント	7
(2) オンラインセッション	8
(3) アーカイブ配信	10
(4) Slackコミュニティ	11
7. 本事業の意義	11
(1) 知見発信：NGOの実践知の社会接続の実現	11
(2) ネットワークの強化：マルチセクター協働の実装モデルの提示	11
(3) 社会との新しい接点：新たな協働	11
8. ファンドレイズおよび収支報告	13
(1) 資金調達の際緯	13
(2) 特徴と意義	13
(3) 収支の結果と課題	13
(4) 評価	14
(5) 今後に向けた改善の方向性	14
9. まとめ	18
10. 謝辞	18

1. 事業概要

1-1 事業名

HAPIC2025 (Happiness Idea Conference = ハピック)

1-2 実施期間

- 事業期間: 2025年8月1日～2026年3月31日
- 開催期間: 2025年11月17日～12月19日

2. 背景と目的

近年、社会課題は複雑化・多様化しており、単独の主体による解決が難しくなっている。そのため、NGO、企業、行政、研究機関など異なる立場の主体が連携し、それぞれの知見や資源を持ち寄ることの重要性が高まっている。

一方で、NGOが有する現場の知見や実践は、必ずしも十分に社会に共有されておらず、企業等との連携も個別的・限定的な取り組みにとどまる傾向がある。

本事業はこうした課題意識のもと、NGOの知見を社会に接続し、多様な主体との対話と関係構築を通じて、新たな協働の可能性を生み出すことを目的として実施した。

目的

- 国際協力分野における知見の共有と課題理解の深化
- 多様な主体の出会いと対話を通じた関係構築
- セクターを越えた協働の創出

3. 事業設計

本事業は、単発的なイベントではなく、参加の段階性と継続性を意識して設計した。具体的には以下の4つの要素により構成される。

(1) 対面交流イベント

リアルな場における対話とネットワーキングを重視し、セッションと交流会を組み合わせ実施した。オンライン配信も併用し、参加の裾野を広げた。

(2) オンラインセッション

多文化共生、ジェンダー、環境、人道支援など多様なテーマで全18セッションを実施し、分野横断的な知見共有の機会を提供した。

(3) アーカイブ配信

リアルタイム参加が難しい層に対しても学習機会を提供するため、期間限定でアーカイブ視聴を可能とした。

(4) Slackコミュニティ

イベント終了後も参加者同士の交流が継続することを目的に、オンラインコミュニティを試験的に導入した。



4. 実施体制

本事業はJANIC事務局が全体調整を担いながら、会員団体によるワーキンググループおよび協賛企業・団体と協働して実施した。

各セッションは担当者が主体となり、テーマ設定、登壇者選定、広報、集客まで運営全般を担った。一部のセッションでは登壇謝金の調達も行われるなど、主体的な関与が見られた。

このようなマルチセクターによる運営体制は、単にイベントを実施するだけでなく、企画・準備の段階から新たな関係構築の機会を生み出すことにつながった。

セッション運営の進め方：会員・協賛者が企画運営と集客を主導



事務局・会員・協賛者（サポーター）がマルチセクターで協働し、セッション企画を推進



5. 参加状況

5-1 参加人数

延べ参加者数:1,092名
(オンラインセッションのユニーク参加者数:718名)

内訳:

- 対面交流イベント:89名
- オンラインセッション:延べ882名
- アーカイブ視聴:80名
- Slack参加者:41名

また、対面イベント参加者の約40%がオンラインセッションにも参加しており、単発参加にとどまらない継続的な関与が確認された。



5-2 参加組織

参加組織数は402にのぼり、そのうち88組織がJANIC会員であった。
これは会員全体の約47.5%に相当し、会員の関与度の高さが確認された。

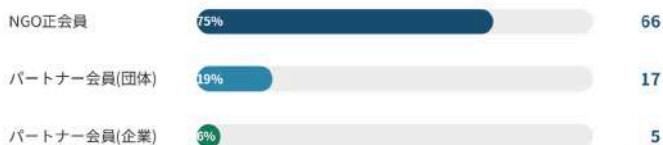
また、非会員の参加も多く、ネットワークの外部への広がりが見られた。



参加組織合計: 402



JANIC会員88組織の内訳



JANICの全会員組織数185組織のうち、88組織 (=47.5%) が参加
(内訳: NGO 66/125、パートナー団体17/39、パートナー企業5/21)

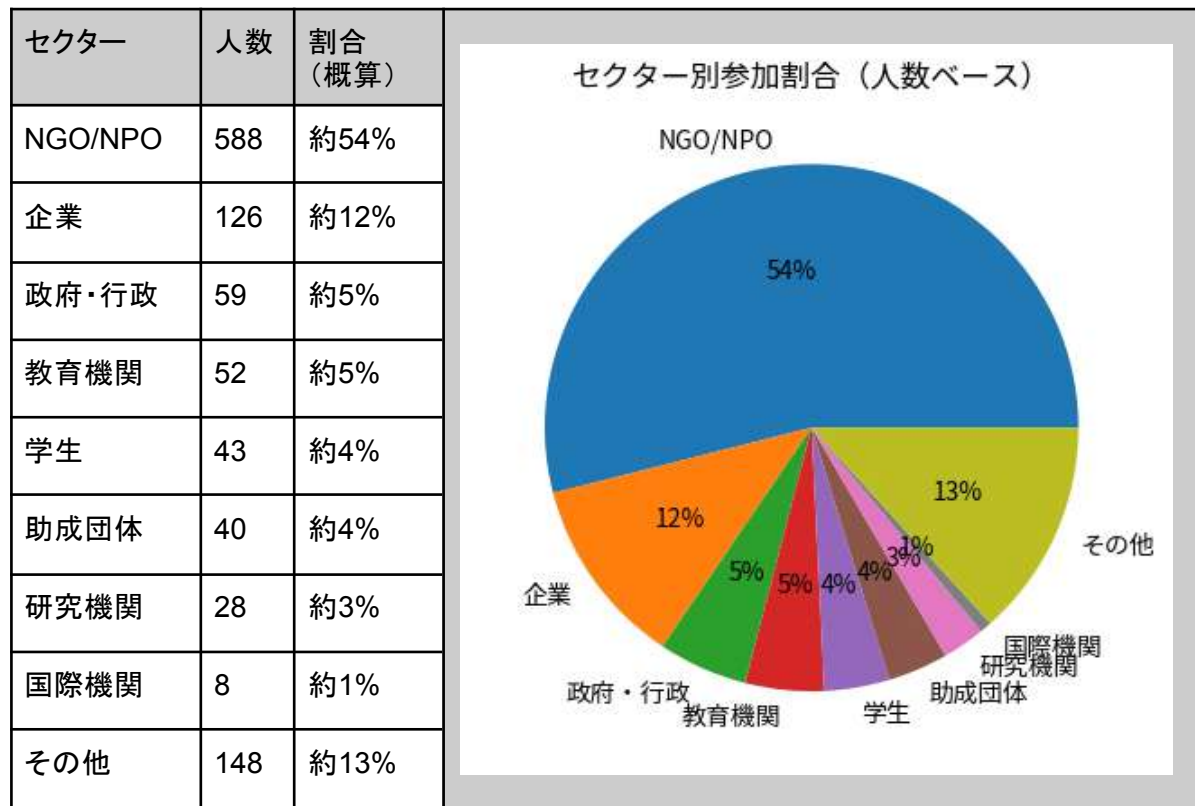
参加構造の分析



結論:
会員が「ホスト(企画・運営側)」となることで、全体の78%を占める非会員層の参加を呼び込む構造が成立していた。

5-3 セクター別構成

参加者はNGO/NPOを中心としつつ、企業、政府・行政、教育・研究機関など多様な主体に広がっており、セクター横断的な対話の基盤が形成された。



6. 成果

本事業の成果を、設計した4つの要素ごとに整理する。

(1) 対面交流イベント



(参加者集合写真)

対面イベントは、オンライン中心となるHAPIC全体の中で唯一のリアル接点として機能し、参加者同士の関係構築および偶発的な出会いを促進した。

前半は4つのセッションをセミナー形式で実施し、同時にオンラインでのハイブリッド配信も行った。後半は立食形式による交流会とし、参加者同士のネットワーキングの時間とした。

対面イベントに関する参加者アンケートでは、全体として高い満足度が確認された。特に、以下の点が評価されている。

- 多様な分野・立場の登壇者による専門性の高い内容
- NGO・企業・学生などセクターを越えた交流機会
- 直接対話を通じた関係構築の機会

一方で、

- セッション時間が短く議論が深まりにくい
- 参加者からの質問機会が限定的

といった改善点も指摘されており、今後のプログラム設計における重要な示唆を得られた。

また、特にネットワーキングの機会に対する評価が高かった。現時点で確認されている事例として、

- 類似領域で活動する団体間での協働検討
 - 非会員団体と非会員企業間での初期的な連携に向けた対話の開始(1件)
 - 非会員企業とHAPIC協力企業間での対話開始(1件)
- 支援団体とNGOとの具体的な連携の成立
 - JANIC正会員団体とHAPIC協賛企業間でのパートナーシップ提携(2件)

が報告されており、具体的な連携創出の起点として機能したことがうかがえる。

【メディア掲載】対面交流イベント開催レポート
 (中央日本土地建物株式会社ウェブサイトNAKANIWA 2026.1.30掲載)
https://www.chuo-nittochi-nakaniwaproject.com/article/20260130_01

(2) オンラインセッション



(写真: 18セッションのサムネイル画像)

約1か月にわたり実施した全18セッションでは、NGOのみならず、企業、助成機関、研究機関、行政など多様なセクターから、延べ70名が登壇した。

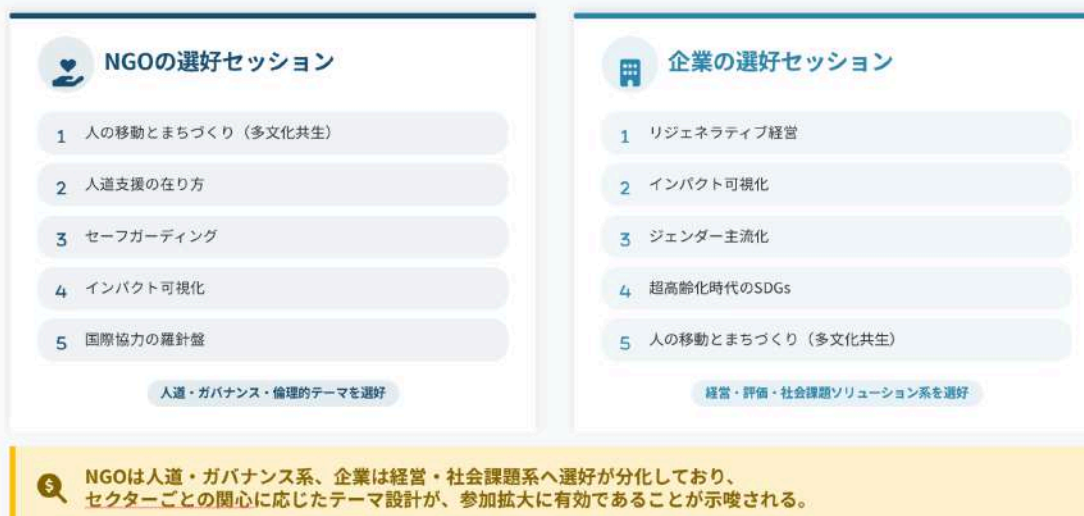
これにより、専門性の高い実践的な知見が共有され、参加者にとって単なる情報収集にとどまらず、社会課題への理解を深める機会となった。

また、参加傾向の分析からは、

- NGOは人道・ガバナンス・倫理的領域
- 企業は経営・評価・社会課題解決領域

への関心が高いという傾向が見られ、セクターごとの関心の違いが明らかとなった。

セクター別にみた関心の違い：NGOと企業の比較

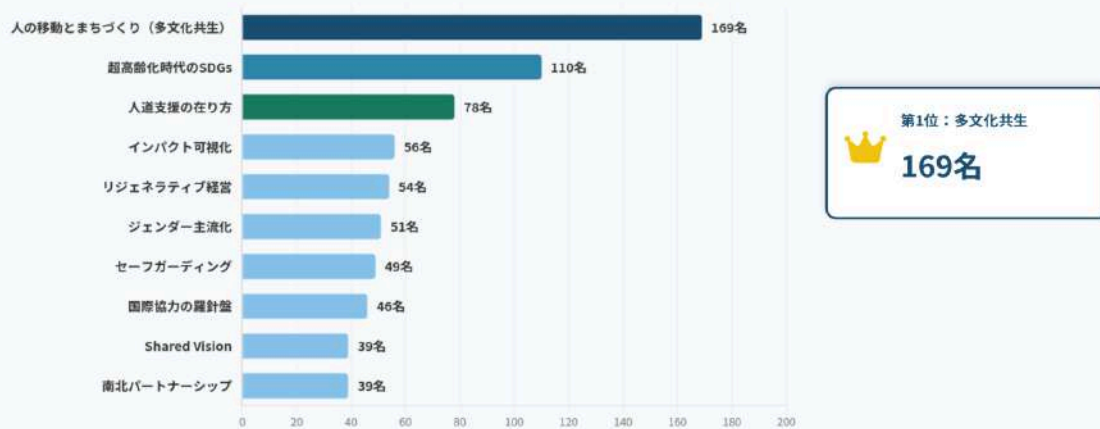


18セッションの実施日・テーマ・主宰は以下の通りである。

#	実施日	テーマ	主宰
1	11/17	国際協力の新たな羅針盤:不確実な世界における平和と持続可能性	JANIC国際平和と安全ワーキンググループ
2	11/17	なぜ今Shared Visionなのか -マルチセクター連携の推進と深化に向けて	JANIC事務局
3	11/17	サポータートークセッション	JANIC事務局
4	11/17	社会を変える「伝える力」の磨き方～遠い世界の課題を「自分ごと」にする発信の極意	JANIC事務局
5	11/19	インパクト可視化の実例で見た実践・活用のポイント	中央日本土地建物株式会社
6	11/20	IKEUCHI ORGANICの実践から学ぶ「みんながハッピーであること」を目指すコミュニケーション	NGO広報担当者交流会ワーキンググループ
7	11/27	葛藤を力に変える！～組織内のコンフリクトに向き合うNGOリーダー	JANIC事務局(一食平和基金合同事業)
8	12/2	PSEAHの取組みを始めよう	PSEAHワーキンググループ
9	12/5	子どもと若者のセーフガーディング～分野を超えた連携と波及～	子どもと若者のセーフガーディングワーキンググループ
10	12/8	境界を越えて紡ぐ物語～分断の時代に問う、つながりの可能性～	ひとしずく株式会社
11	12/10	国際協力におけるジェンダー主流化:LGBTQ+コミュニティの社会包摂の事例	ジェンダー平等推進ワーキンググループ
12	12/5	グローバルな視点から考える「人」の移動とまちづくり～地域から始まる共生のヒント～	多文化共生ワーキンググループ
13	12/15	サステナブルを超えるリジェネラティブ経営:企業変革の新潮流	企業とNGOとの連携促進ワーキンググループ
14	12/16	CSOの南北パートナーシップの現在地:グローバルノース(北側)のCSOのあり方を考える	JANIC事務局・政策アドバイザー
15	12/16	超高齢化時代にあつてのローカル地域でのSDGs推進を考える～地域リーダーが拓く持続可能な未来～	創価学会
16	12/17	G20南アフリカ・サミットと市民社会～連帯・平等・持続可能性の達成に向けて～	サミット・ウォッチ・ジャパンワーキンググループ
17	12/17	人道支援の在り方を考え直す～アジア太平洋地域 人道支援パートナーシップ・ウィークの参加報告から～	NGO2030ワーキンググループ
18	12/18	人こそ力！定着率を高めるNGOの福利厚生戦略と実務～国際協力NGOのための福利厚生施策を考えるセミナー～	株式会社ベター・プレイス

セッション参加ランキング（延べ参加ベース、上位10）

全18セッション中、上位3テーマに参加者が集中。社会課題への関心の高さが反映された。



(3)アーカイブ配信

アーカイブ配信は、時間や場所の制約を超えた参加機会を提供し、リアルタイム参加が難しい層にも学習の機会を広げた。

- チケット発行数:80枚
 - ・有償販売:45枚
 - ・招待枠:35枚

この仕組みにより、各セッション終了後も一定の関与が維持された。

一方で、HAPICの情報資産としての価値を鑑みると、コンテンツを一過性のものにとどめず、期間終了後も知識の蓄積として継続的に活用していくための仕組みづくりが今後の課題として認識された。

アーカイブ：参加機会の拡張と今後の資産化

オンライン・対面での参加に加え、アーカイブやコミュニティを通じた関与も一定程度みられた。

✓ アーカイブ配信の3つのメリット



時間の制約を克服

業務や時差の関係でリアルタイム参加が難しい層への機会提供。



学習・復習の深化

聞き逃した箇所の確認や、チーム内での共有学習教材として活用。



グローバルリーチ

海外駐在員や多忙な専門家など、物理的距離を超えたアクセスを実現。

80名

アーカイブ視聴者

非同期参加チャンネル

イベント終了後も
コンテンツ価値が特続

💡 次年度に向けた検討課題

アーカイブの資産化と積極活用

- ➔ アーカイブを単なる記録ではなく「コンテンツ資産」として定義。HAPIC期間終了後も社会啓発ツールとして活用していくことが求められる。

(4) Slackコミュニティ

Slackコミュニティは、リアルタイム参加が叶わないアーカイブ視聴者も、各セッションの登壇者や企画者と交流できるよう、アーカイブチケット購入者対象特典として、2/14までの期間限定で導入した。従来のHAPICにはない新しい試みであったものの、Slack内での参加者同士の自発的対話は想定ほど盛り上がりせずに終わった。

要因としては、

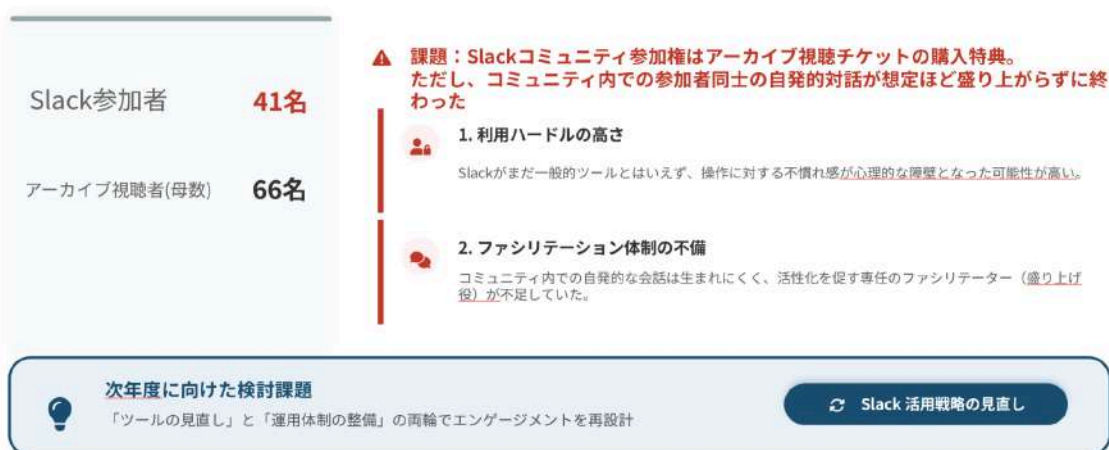
- ツール利用の心理的・技術的ハードル
- ファシリテーション体制の不足

が考えられる。

オンラインコミュニティの運営には場づくりが不可欠であることが明らかとなり、今後の改善に向けた具体的な知見が得られた。

Slack：継続的対話の試みと課題

アーカイブ視聴者の一部を対象とした試行的な取り組みとして、登壇者や他の参加者との意見交換ができるコミュニティをSlack上に設置。



7. 本事業の意義

本事業を通じて得られた成果の意義は、以下の3点に整理できる。

(1) 知見発信：NGOの実践知の社会接続の実現

NGOの実践知が体系的に整理され、多様な主体に共有されることで、社会課題への理解を深める基盤が形成された。

(2) ネットワークの強化：マルチセクター協働の実装モデルの提示

本事業は、NGO、企業、行政、研究機関などが共同で企画・運営を担うことで、セクター横断的な協働のあり方を具体的に示す実践モデルとなった。

(3) 社会との新しい接点：新たな協働

企業スポンサーおよび協賛団体は、対面交流イベントにおける対談企画やオンラインセッションの企画・運営に主体的に関与した。

これにより、本事業における協賛は単なる資金提供にとどまらず、事業の共創を担うパートナーとしての関係性へと発展した。



また、これらの成果は、企業にとっても自社の知見やネットワークを社会課題解決に接続する具体的な機会となっている。

特に、企業セクターからの協賛社との連携においては、

- JANIC事務局とのベター・プレイス社との代理店契約
- JANIC事務局と中央日本土地建物社とのパートナーシップ提携

といった、具体的な事例に至っており、いずれも企業による事業とNGOを接続することでJANIC会員団体の能力強化に広く貢献するスキームとなっている。

このことは、イベントを通じた企業との継続的接点が、具体的な関係資本の創出につながった成果と言える。



8. ファンドレイズおよび収支報告

(1) 資金調達の経緯

本事業は、対面イベント、オンラインセッション、アーカイブ配信等を組み合わせたハイブリッド型で実施しており、収益とコストの両面において複合的な構造を有している。

対面交流イベントの開催会場については無償提供の見込みがあった一方で、運営に必要な初期資金の確保が課題となっていた。

大竹財団様からの助成金50万円が最初に確定したことで、事業実施に向けた資金面での見通しが立ち、開催の意思決定を行うことが可能となった。その結果、協賛企業や寄付の呼びかけを具体的に進めることができ、複数の資金源を組み合わせた事業として発展させることにつながった。本助成は、本事業の実現における基盤的な役割を果たすとともに、その後の資金調達および事業拡張の起点となった。これがなければ、事業の実施規模を維持することが難しく、参加機会の拡張および多様な主体の参画は限定的なものとなっていたと考えられる。

事業を進める中で、多様なセクターの巻き込みに伴い、セッション数が当初予定していた10から18に膨らんだため、全体調整にかかる職員工数が増加した。これによる人件費支出の増加を補うべく、協賛獲得やチケット販売等による更なるファンドレイズ策を実施した。

協賛・チケット等の収益は一定の成果があり、ファンドレイズの当初目標金額を上回る額を調達できたものの、最終的に工数増加分の人件費を補いきれなかった。今後は、運営の効率化を図るとともに、コミュニティ設計や運用方法の見直しを行い、事務局負担を下げた運営体制を構築する必要がある。

(2) 特徴と意義

本事業の資金調達の特徴は、資金提供と事業参画が一体化している点にある。

特に協賛においては、

- セッションの共同企画
- 登壇者のアサイン
- 会場提供
- 広報

など、単なるスポンサーではなく「共創パートナー」としての関係が構築された。

これは、従来の資金提供型モデルとは異なり、マルチセクター協働を体現する実践的な枠組みであったといえる。

(3) 収支の結果と課題

本事業においては、最終的に収支は均衡には至らず、事務局負担による持ち出しが発生した。

この背景として、主に以下の要因が挙げられる。

- セッション数が当初想定を上回り(当初10程度 → 実績18)、運営工数および関連コストが増加した

- アーカイブ配信やSlackコミュニティの導入など、新たな取り組みに伴う運営負荷が想定以上に増大した

これらは、いずれも本事業の目的である「関係構築」「協働創出」を重視した意思決定の結果であり、一定の成果（協働事例の創出、参加者満足度の向上等）につながっている。

一方で、事業の持続可能性の観点からは、収支設計の精緻化が重要な課題であることが明らかとなった。

(4) 評価

本事業は収支面では課題を残したものの、企業協賛を通じた協働創出や新規連携の創出といった成果を踏まえると、単年度の収支にとどまらない中長期的な価値創出の観点からは、一定の有効性が確認された。

(5) 今後に向けた改善の方向性

本事業の経験を踏まえ、今後は以下の点の改善が必要である。

- セッション数と運営体制の適正化（規模とリソースのバランス）
- 収益機会の多層化（アーカイブ、スポンサー連携の拡張等）
- 事業設計段階での工数・コスト見積の精度向上

また、協賛については、資金提供に加えて事業参画を伴う形での価値提供が可能であることが確認されたため、今後はこうした「協働型スポンサーシップ」を強化することで、収益と事業価値の両立を図ることが期待される。

収入

(単位: ¥)

項目	当初予算	修正予算	決算	備考
協賛	700,000	950,000	1,000,000	
株式会社ベター・プレイス	150,000	500,000	550,000	
ひとしづく株式会社	300,000	300,000	300,000	
創価学会	150,000	150,000	150,000	
その他	100,000	0	0	
助成金	500,000	600,000	690,000	
大竹財団	500,000	500,000	500,000	HAPIC全体に対する助成
立正佼成会		100,000	100,000	特定セッション(葛藤を力に変える! ~組織内のコンフリクトに向き合うNGOリーダー)実施に対する助成
寄付	0	120,000	30,000	
個人寄付	0	30,000	30,000	
団体寄付		90,000	90,000	国際平和と安全WG加盟3団体x3万円による、特定セッション(国際協力の新たな羅針盤)に対する寄付
事業売上	90,000	297,000	242,859	
交流イベント参加費@Peatix	90,000	110,000	115,458	計42枚分、販売手数料差引後額。
アーカイブ視聴チケット@Peatix		187,000	110,901	計40枚分、販売手数料差引後額。
アーカイブ視聴チケット		0	16,500	計5枚分、直接販売額。
収入総計	1,290,000	1,967,000	1,962,859	

- 本事業の収支は、当初計画からの事業拡張に伴い、助成金に加えて協賛金、寄付金、チケット収入等を組み合わせた構成となった。
- 特に、対面交流イベントの参加費(懇親会費)およびアーカイブ配信チケットの販売により、一部費用の回収を図った。

支出

(単位: ¥)

項目	当初予算	修正予算	決算	備考
①会場関係費	0	0	0	
会場費	0	0	0	中央日本土地建物様より無償提供 (約50万円相当)
②謝金	300,000	300,000	310,000	
登壇者謝金	300,000	300,000	310,000	
③業務委託費	100,000	130,000	124,620	
業務委託費	100,000	130,000	124,620	1名2か月分
④その他:	0	150,000	151,236	
運搬費	0		2,530	宅配便代
ウェブ制作・更新	0		3,456	ドメイン契約
広告費	0		11,000	
交通費	0	20,000	6,616	スタッフ都内交通費
イベント費: 休憩用菓子・ドリンク	0		1,280	
イベント費: 登壇者用弁当・飲料水	0		13,890	
イベント費: 懇親会ケータリング・飲料等	0	130,000	112,464	
⑤人件費	600,000	1,057,000	1,755,219	
担当者人件費	600,000	1,057,000	1,755,219	
⑥管理費	200,000	330,000	468,215	
管理費	200,000	330,000	465,969	①～⑤合計の約20%
小計	400,000	580,000	585,856	①～④合計
	1,000,000	1,637,000	2,341,075	①～⑤合計
支出総計	1,200,000	1,967,000	2,809,290	①～⑥合計

- 当初10セッションを想定していたが、最終的には18セッションのエントリーがあり、事務局担当者の工数が増加したため、途中で人件費を上方修正した。
 - 当初想定: コーディネーター(4500x66h)、マネージャー(7600x40h) = 600,000円。
 - 修正予算想定: コーディネーター(4500x66h)、マネージャー(7600x100h) = 1,057,000円。
 - 実績(事務局全体工数): 526時間47分、1,755,219円

収支

(単位: ¥)

項目	当初予算	修正予算	決算
収入計	1,290,000	1,967,000	1,962,859
支出計	1,200,000	1,967,000	2,809,290
収支計	90,000	0	-846,431

収入面においては、当初予算129万円を超え、196万円を達成することができた。一方で、主に事務局工数の増加による人件費の増額により、最終的に84万円超の赤字となった。

9. まとめ

HAPIC2025は、NGOの知見を社会に接続し、多様な主体との対話と協働を促進する場として機能した。

本事業を通じて、単なる情報共有にとどまらず、具体的な協働の創出に至るプロセスが確認され、マルチセクター連携の有効性が実証された。

今後は、本事業で得られた知見とネットワークを基盤として、企業・団体との協働機会をさらに拡張し、持続的な社会課題解決に向けた取り組みへと発展させていくことが期待される。

10. 謝辞

本事業の実施にあたり、企画・登壇・運営・協賛等へご協力を賜りました皆様に、謹んで御礼申し上げます。

特に、下記の皆様には格別のご高配を賜りましたこと、ここに記して深く感謝申し上げます。

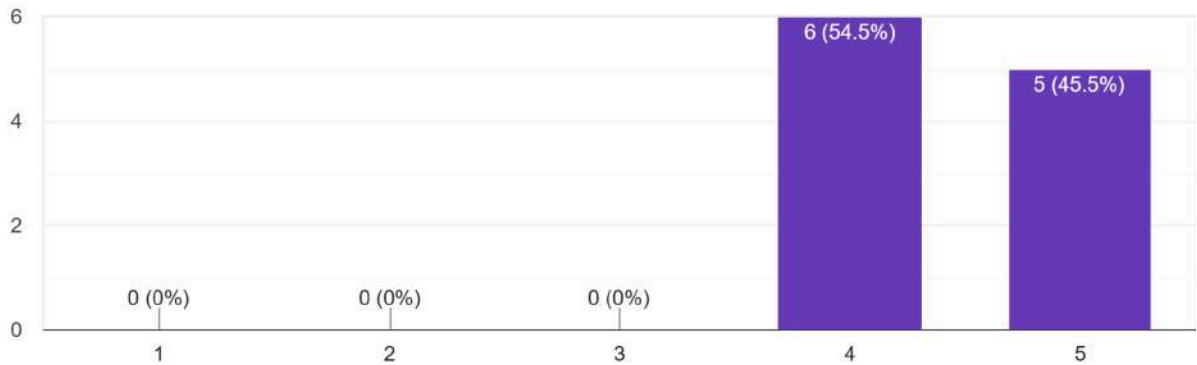
- 助成
大竹財団
立正佼成会一食平和基金
- 協賛
中央日本土地建物株式会社
株式会社ベター・プレイス
ひとしづく株式会社
創価学会
- 団体寄付
(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン
(特活)テラ・ルネッサンス
(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
(特活)ジャパン・プラットフォーム
- 協力
株式会社EMA(Social map運営)

参考資料

対面交流イベント参加者アンケートより

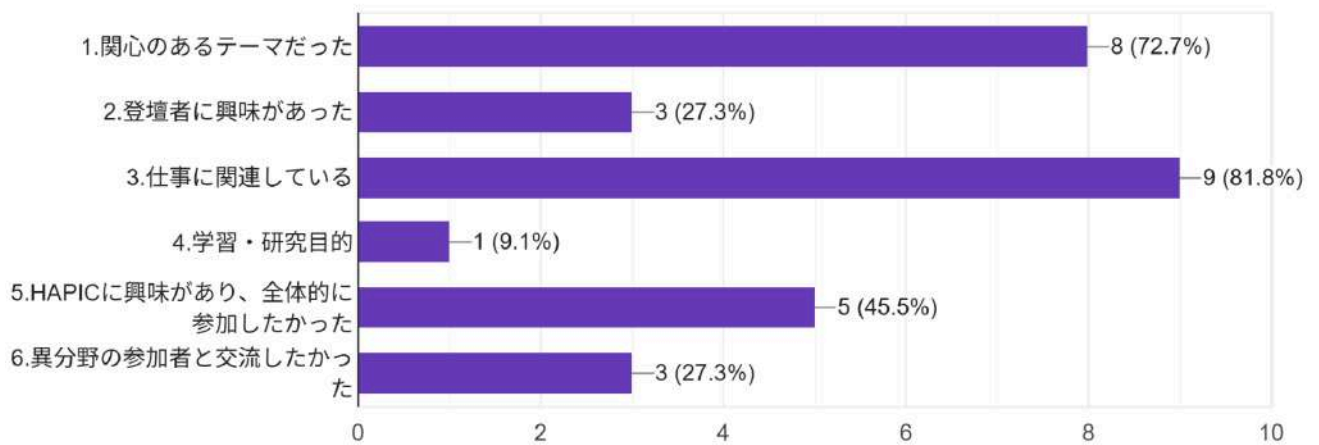
Q1 | 本イベント全体の満足度を教えてください。（5段階： 1.不満 / 2.やや不満 / 3.どちらともいえない / 4.満足 / 5.とても満足）

11件の回答

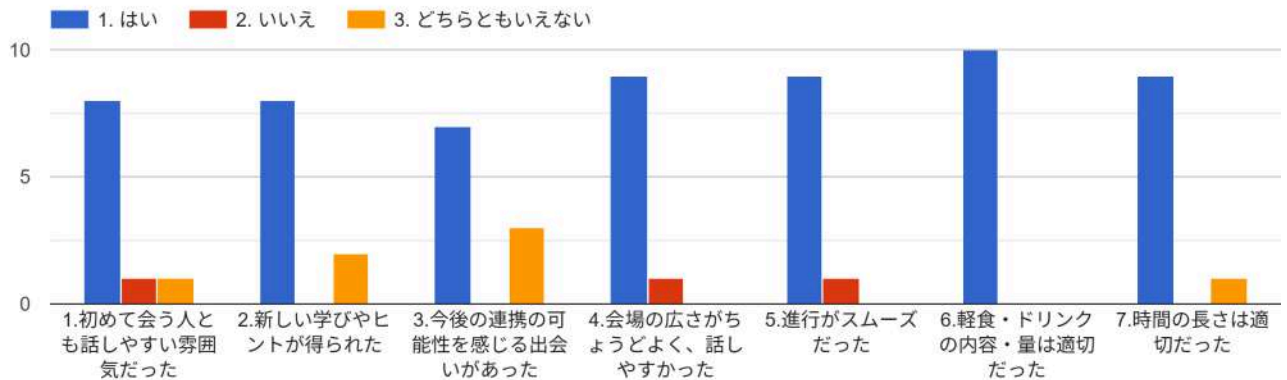


Q3 | 今回参加した理由を教えてください（複数選択可）

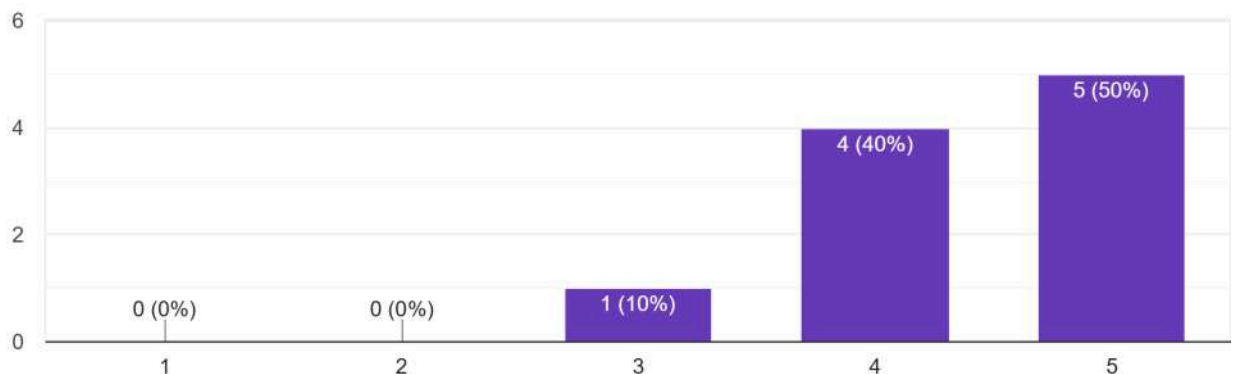
11件の回答



Q6 | 18:00からのネットワーキング交流タイムに参加された方にお聞きします。
ネットワーキング交流タイムについて、当てはまるものを教えてください



Q7 | 【ネットワーキング交流タイム】の総合的な満足度を教えてください。（5段階：1. 不満 / 2. やや不満 / 3. どちらともいえない / 4. まあ満足 / 5. とても満足）
10件の回答



印象に残った点、今後に向けた期待など(自由記述形式、一部抜粋)

- 登壇者の方が専門性の高い方ばかりで、どの話も大変興味深かった。
- 国際協力の課題や今後について、それぞれの立場からお話いただき、とても興味深いものでした。
- 多様なパートナーシップが既に生まれている点、企業も機会を求めているとわかった。
- 色々な立場、色々な分野の方のお話をお聞きすることができて、本当に興味深く、勉強になりました！
- 各セッションが時間切れで十分な深堀に至らなかったと思うので、セッション数を減らして1セッションに充てる時間を増やした方がよいのではと思いました。
- 各セッションについては、参加者からの質問の時間、あるいはネットを通じた質問の機会があるとよかったですと思います。
- NGO同士、また他セクターが集まる貴重な機会だと思いました。ありがとうございました。

- 懇親会を初日にしてくださり、ありがとうございました。準備が大変だとは思いますが、直接お会いできる貴重な機会ですので、ぜひ続けていただきたいです。
- 企画・運営ともに多くの関係者の調整が必要なので、担当者の方は大変と存じますが、ぜひこの会の継続を望みます。
- 持続可能な社会の実現に向けて、様々なアクターと共創につながれるとよいなお話を聞いて思いました。貴重な会をありがとうございました！
- 大変興味をもっていったテーマでしたので、メモを取る手が止まらないほど、内容の濃い学びの時間を過ごさせていただきました。国際支援にかかわる一員として、大きな励ましをいただきました。
- 当日業務の都合で参加できなかったスタッフから、「ぜひ動画で内容を拝聴したい」との声があがりました。
- ○○さんをご紹介いただきありがとうございます！気づけは交流会が終わるくらいまでずっと話をしているという状態でした。週明けに対面Mtgをする予定です。改めてご紹介・お繋ぎいただきありがとうございます。今後こういった内容で一緒にできるかわかりませんが、こうしたご縁を大切にしたいと思います。
- 社会課題の最前線で活動される皆さまの熱量を感じる場にご一緒でき、いろいろな刺激をいただきました。NGO、NPO、事業会社の垣根を越えて、社会の循環をよりよくさせていけるべく、弊社の課題にとどまらず皆様の課題解決にご協力できましたら幸いです。
- 対面交流イベントでは、学生が中心となって活動している私どもの取り組みに、あたたかいお言葉を頂戴し、大変心強く感じております。まだ小さな実践の積み重ねではございますが、社会課題に向き合う一歩一歩を、大切にしていきたいと思います。また、JANIC様が大切にされている、団体間のつながり、学びや協働の機会づくりのお考えに、強く共感いたしました。
- Both the HAPIC event and your message couldn't have come at a better time. Thank you again to you and your team for organizing such an inspiring event this year. I look forward to becoming a more active participant going forward.